

実践的推論プロセスに基づく消費者教育の授業提案：

中学と高校での実践を踏まえて

Proposal of the classes' of consumer education based on the practical reasoned process:
through practical experience at a junior school and a high school

高 橋 桂 子・岡 崎 空

Keiko Takahashi・Sora Okazaki

1. 問題意識

多様化した消費社会の現状を受け、消費者庁は、平成16年に「消費者保護基本法」の名称を「消費者基本法」と変更するとともに、「消費者の権利の尊重」と「消費者の自立の支援」を消費者政策の基本とすることを規定した法律に改正した。平成24年にはさらに、「消費者教育の推進に関する法律」が制定され、消費者教育も新たな局面を迎えている。自立した消費者を育成するための「消費者教育」は、今日、最も注目されるものの1つといっても過言ではない。多々納・福田（2011）は、「家庭科における生活実践力をもつ生活者の育成にあたり、賢く、自立した、よりよい判断力をもった消費者を育てることは重要なことである。しかしながら、消費者教育は生涯発達の中で捉える必要がある。学校教育の一教科である家庭科では、現在と将来を通して、持続可能な、そして真に豊かな消費生活を送るため応用可能な科学的認識、価値認識、生活技能などを習得させたい」と述べ、さらに「消費者教育の学習は自分にとって価値ある情報を選択し、意思決定し、実行、評価するプロセスが必要である。」「生活の身近な課題解決において意思決定する能力は非常に重要である」と指摘している。

平成20年、新学習指導要領においても、生活を営む上で生じる課題に対して自分なりの判断をして課題を解決することができる能力である「問題解決学習」の充実を掲げている。これら一連の動向を鑑みると、教育界全体において問題解決プロセスを充実させ、実生活を営む上で自らの意思に基づく決定をすることのできる力を育成することが求められているがわかる。

本研究は、消費者教育において「意思決定能力」を高め、「真に豊かな消費生活を送る」ための教育を展開するために、新たな問題解決学習の学習モデルのひとつである実践的推論プロセス（Practical Reasoning Process）に基づく授業展開を考え、中学と高校での授業実践を踏まえて上で、消費者教育に関する授業構想を提案することが目的である。

2. 実践的推論プロセス（Practical Reasoning Process）とは

Majorie.M.Brown（1978）は家族の生活行為を「技術的行為」「コミュニケーション的行為」、「開放的行為」に類別した。実生活の中で、絡み合うそれぞれに対し、「問い」を重ね、意思決定をし、行為に結びつけることを生活実践であるとし、これを「実践的推論プロセス（Practical Reasoning Process）」とした。

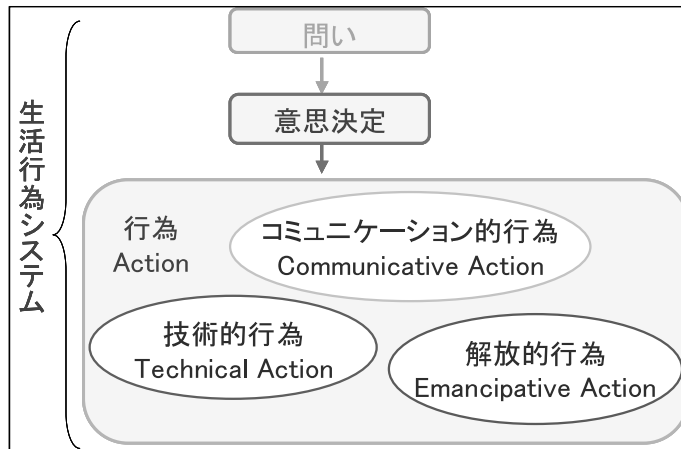


図1 ブラウンの「実践的推論プロセス」イメージ

このブラウンの理論を問題解決学習のプロセスとして派生させたのが「REASONモデル」（オハイオ州立大学）である。過程の各段階の頭文字をとってREASONとされる。

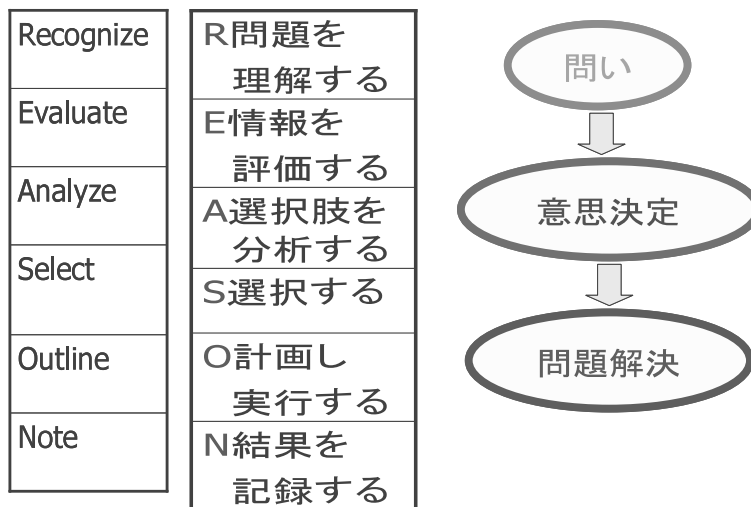


図2 「REASONモデル」イメージ

このモデルの特徴は、各段階で繰り返し「問い」を重ねて意思決定を導く、という点にある。各段階で様々な視点からの問いかけを行うのである。各段階での問いの例を以下に示す。

表1 REASONモデルにおける各段階の問い

REASON		主な問い
Recognize	問題を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・問題は何か？ ・なぜ、問題に取り組むことが重要なのか？ ・問題の背景はなにか？ ・問題の原因は何か？ ・誰が引き起こしているのか？ ・選択に影響を与えるであろう、この問題についてのファクターは何か？ ・利用可能な手段は？ ・状況に影響を与える状況的ファクターは？ ・問題解決においてのゴールは何か？ ・到達したい、望ましい結果は何か？
Evaluate	問題を解決するために必要な情報を評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・必要とされる実際の情報は何か？ ・どこで、この実際の情報を手に入れることができるか？ ・この問題の状況に関しての個人的な価値は何か？ ・どの価値が最も重要か？ ・この状況において含まれる他の価値は何か？ ・これらの価値が、意思決定にどのように影響を与えるか？
Analyze	選択と影響を分析する	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な選択は何か？ ・それぞれの選択肢についての短期的、長期的な結果は何か？ ・自他に対する結果は何か？
Select	最適な選択を選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・どの選択肢が、この問題に関しての最善の価値や望んだ結果を反映するか？ ・どの選択肢が、自他にとって最もポジティブな結果を引き起こすか？ ・どの選択肢がこの特定の状況において最も良い働きをするか？
Outline	アウトラインと活動計画の実行	<ul style="list-style-type: none"> ・選択を実行するのに必要なスキルは何か？ ・選択を実行するのに必要なリソース(資源)は何か？ ・アクションを起こすのを妨げるであろう、既存の障害は何か？ ・どのようにしてそれらの障害を打開することができるか？ ・どのようにして、解決に到達するのに必要な様々な課題を体系化することができるか？
Note	活動結果を記録する	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ選択をもう一度するか？一なぜすると／しないと思うか？ ・何を学んだか？ ・この問題解決の経験は、将来の問題解決にどのように影響したか？ ・このアクションは、自他の幸福を高めることができたか？ ・このアクションは、道徳的であったか？

(出典)REASON Through Practical Problemsの筆者ら翻訳。資料は荒井紀子先生(福井大学)にいただいた。

Rではなぜ、この問題に取り組むことが重要なのかなどを問うことで問題理解を深め、Eでは、問題を解決するにあたって必要とされる情報は何か、必要な情報を評価し、Aでは、選択肢を多方面から比較分析し、Sで選択肢を決定する。そして、Oでそれまでに吟味した選択を現実的なリスクなどを考慮し体系化した後に実行に移す。そして最後、Nで一連の結果を自己評価し記録する、という流れである。

3. 研究方法

(1) 手続き

REASONモデルに関して理解を得た上で、中学校と高校において授業実践を行った。実践1では生徒主体の問題解決を目指した授業を、実践2ではREASONモデルを組み込み、モデルの特徴である主体的な意思決定を狙った授業を行った。これらの授業実践を経て、REASONモデルを拡張した。その上で、家庭科が持つ多様な領域、具体的には衣・食・住・消費4領域の授業案を作成し、新潟県内の高校家庭科教諭7名から意見を頂いた。頂いた意見を基に改善した授業案を提案した。

(2) 2回の授業実践

① 授業実践1：生徒の主体的な問題解決（中学校）

1度目は平成25年2月に、新潟市立上山中学校第2学年4組のご協力を頂き、生徒の主体的な問題解決を目指した授業を行った。実践は消費者教育分野の第3次2時間分を担当した。

実践校	新潟市立上山中学校
対象学級	第2学年4組
期日	平成25年2月27日(水)第3・4校時
題材名	「わたしたちの消費と環境」
担当内容	第3次/全5次(本時5・6/10時) 「消費者トラブルを解決する方法を知ろう」

生徒主体の問題解決をめざすにあたって、生徒の興味関心を惹き、会話を増やすことでより主体性が高まると考え、KJ法を取り入れたり、ICT(iPad)を利用したりすることを試みた。

この実践をふり返って、KJ法は、複数の目で様々な視点から情報や問題を発見でき、充実した意見交流につながることもわかった。また、ICTを用いるには、準備や教師の知識、学習につなげるための効果的な取り入れ方を十分に検討していく必要があるとわかった。

② 授業実践2：REASONモデルの組み込み（高等学校）

実践校	新潟県立長岡商業高等学校
対象学級	家庭クラブ+有志の生徒23名
期日	平成25年12月4日(水) 15:20~16:50
題材名	「ライフスタイルや家計管理を意識して自分の購入したい車を選ぶ。」

2度目の授業実践は、新潟県立長岡商業高校で実施した。この授業の特徴としては、中学での実践同様、主体的な意思決定をしてもらうために、題材を生徒の興味・関心のあることに設定したことである。高校卒業前の3年生たちに関心の高い「自動車の購入」を設定した。

その他、工夫した点は、授業内でREASONモデルを黒板に提示し、生徒たちが、どの段階の自問自答を取り組んでいるのか、わかるようにしたことである。これは、生徒の意思決定を導くためのプロセスを意識させるため、本時で学んだREASONモデルを、授業だけでなく、日常生活においても還元できることを期待したためである。

この授業をふり返って、生徒のコメントから、「気づかないうちに生活の中でもREASONモデルを行っていた」、「普段も意識したらいい」などの、実生活へのモデル還元を前向きに意識したコメントを得ることができた。さらに「ほかの人は関係なく、自分の意見で選ぶことができた」「その結果、他人と選択が異なっても良いということがわかった」という、意思決定において重要なポイントをクリアできたコメントを得ることができた。まさに、主体的な意思決定が行われた証と言えよう。

(3) REASONSモデルの提案

2度の実践を通して、REASONの「N活動による結果を記録する」の先に、経験を生かして改善するプロセスを導入することで既存のREASONモデルをさらに発展できる。「S 記録をもとに改善する」を加えた「REASONSモデル」を、ここに提案する。

表2 従来型問題解決学習と実践的問題解決学習の比較表



従来型	問題解決	実践的問題解決学習	REASONモデル	REASONSモデル
		問題への着目	R：問題を理解する	R：問題を理解する
		問題の特定		
Plan	計画	解決の選択枝検討	E：問題解決に必要な情報を評価する	E：問題解決に必要な情報を評価する
			A：選択枝が与える影響を分析する	A：選択枝が与える影響を分析する
			S：最善の選択枝を選ぶ	S：最善の選択枝を選ぶ
Do	実行	決定と行動	O：活動計画を実行する	O：活動計画を実行する
See	評価	省察	N：活動による結果を記録する	N：活動による結果を記録する
	改善			S：記録をもとに改善する

(Janet Laster,1980's)

(4) 4領域授業案の提示

授業は、高等学校家庭基礎を想定した4授業を構成した。題材名は「独立した生活を考える」である。具体的には、衣領域では設定した条件をもとに最適な衣服を選択する授業、食領域では特別な日の1食分の献立を考えるとし献立を選択する授業を、住領域では家計管理を意識しつつ賃貸の物件を選択する授業を、そして消費領域の授業は高等学校（授業実践2）で行った自動車の購入（改訂版）である。

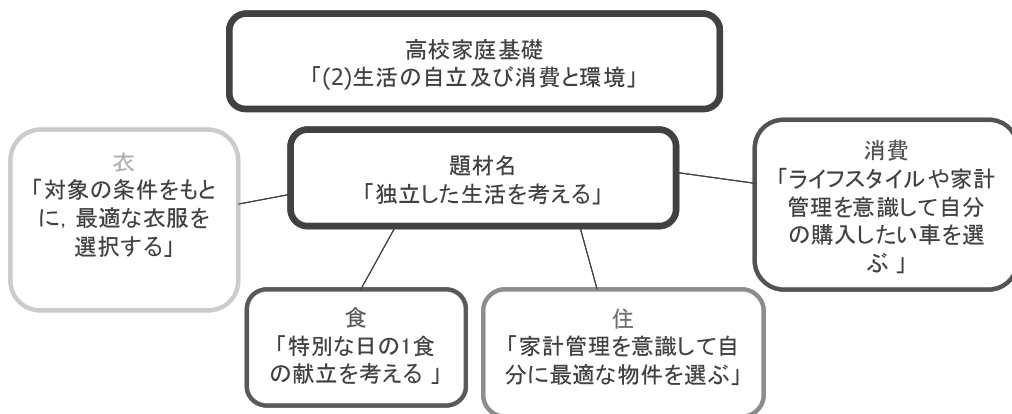


図3 提案授業の体系

(5) フィードバック

提案した授業構成を、新潟県内高等学校家庭科教諭の7名の先生方にご指導頂き、6名（A-F校と示す）からフィードバックの回答を得た。現場の教師による率直な意見を受けて、感じたことや今後の課題を示す。

① 理論について

- ▷ モデルの必要性について。問題解決の過程の比較があると、よりわかりやすいので良かった。実証科学（PDSサイクル）に基づく問題科学のとらえ方と、批判科学（REASON）に基づく問題解決のとらえ方について詳細等。（A校）
→実証科学と批判科学としての理論比較が薄いことに気づかされた。問題解決学習のプロセスとしての理論比較の説明が少なかったため、更に充実したものにしたい。
- ▷ REASONモデルは自分自身がしっかりと理解できておらず、なかなか実践できないと思っていたので理解を深めることが出来た。問題解決学習をすすめるにあたってはその流れがわかりやすく、授業を組み立てる側にとっても有効な方法だと感じました。（B校）
→このような思いを抱いた現職の先生方がみてわかりやすいものに改善したい。
- ▷ 提案書「問題解決の過程の比較」の表より、「問題への着目・特定」が加わることで、計画・実行が具体化しやすいことが分かった。さらに「記録をもとに改善する」という項目から、科学的な視点を養うこともできると思った。（C校）
→「科学的な視点を養う」というコメントをいただいたことは嬉しかった。家庭科においてももっとも欠如していることが、理論に基づく授業と考えているからである。その他、「REASONSモデル」に拡張した点も認めてもらい、ありがたいコメントだ。
- ▷ 単発的な調理実習や被服製作などは従来型のPDSで良いと思うが、授業展開の中に実習を取り入れる場合、「なぜこの実習が必要なのか」から考える必要があり、その場合には、REASONSモデルの必要性を感じる。（C校）
→この通りだと思う。授業全部にREASONSモデルを用いる必要はない。また、この「なぜこの実習が必要なのか」については、授業での取り入れ方に課題があった「R問題を理解する」の理論解釈につながる視点であり、非常に重要な考えである。
- ▷ この部分がとても重要であり、問題に「気づかない、着目しない、できない」状況が高校生の現状であると思う。高校生の創造力を誘う具体的な工夫はどのようなものか考えられるか。（実際に起こっている事象について新聞記事の提示やチラシの活用なども考えられる。）（F校）
→中学や高校における授業実践でも、実践校の先生からアドバイスを頂きながら、発達段階にある生徒の興味関心の高いテーマを取り上げた。REASONSモデルを意識させるためには、「生徒の創造力」、生徒の興味関心を引き出さねばならない。新聞記事やチラシからの問題提起は非常に有効な導入として使えると感じる。

② 提案授業に関して

- ▷ 自分の授業で活用したいな、という見方で学習内容を辿ると、Ⅲの住居と消費（家計管理を意識して最適な物件を選ぶ）と、Ⅳのライフスタイルと消費（家計管理を意識して購入したい車を選ぶ）。特に分析する（Analyze）授業展開に無限の可能性があっけおもしろいと感じた。（A校）
→実践を経て、情報を評価する段階での複数の意見を交える活動がより広い視野であればあるほど、個人の考えにおとしこむ際に充実した分析をすることができると実感した。その点においては、まさに、「無限の可能性」と言えると思う。
- ▷ 他者の意見や価値観を素直に受け入れやすいように感じた。Ⅰ、Ⅱの食、衣と消費を結びつけた授業は、課題提示をもう少し絞ると取り組みやすいように感じた。例えば、「家族の特別な日の献立」→「担任の先生へのお弁当」など、箱に詰める、という制限や、対象となる人物を絞ると分析や活動計画実行へとイメージしやすい。（A校）
→「制限」を加えると一気に具体化され、生徒もイメージがわきやすいと感じた。授業構成のテクニクとしてとても勉強になる。
- ▷ 実践できると面白いと思う。生活をしていくためには考えなければならない事がたくさんあるのだと

改めて気づかされた。全ての分野で実践できれば生徒もそれに気づいてくれるだろうと感じた。（B校）

→授業を通して、生徒が実生活で問題解決のプロセスを意識し実践することができるような実践を考案したい。

- ▷ 家庭基礎の、限られた短い時間の中では有効かと思う。一つの題材の中に、様々な要素をいれて授業展開できそう（教員側の力量が問われる）。（C校）

→モデルを領域横断させることは有効であるようだ。

- ▷ 本時の課題提示について、留意点にもう少し詳細をかいてほしかった（なぜこのテーマを設定したのかなど）。最初のRが従来とは違い重要だから。実践するとしたら展開内容の綿密さと導入での興味をひきつける内容提示が必要。（C校）

→各段階での「問い」を明示し、モデルを明確化した授業案が必要である。

- ▷ PDSに比べて、REASONモデルではRが入っているが、3つの授業提案どれもREASONモデルの特徴が入っているとは思えない。「PDS」と差別化される内容が欲しい。（D校）

→特にRでは「なぜこの問題に取り組む必要があるのか」「到達目標はなにか」などといった問いを明確化することにより生徒の問題理解を深めることで「REASONモデル」の特徴が生かされてくると考える。

- ▷ 「独立した生活」をテーマに「食」「衣」「住」「車の購入」の提案授業があったが、「衣」「住」「車の購入」は、自分を主体に考えていくのに対し、「食」は家族（相手）を主体に考えていく内容である。テーマに一貫性を持たせるのであれば、「食」についても生活する自分を主体に考える内容がいいと思う。（単独でみた場合には良いと思う。）（E校）

→題材設定に際しては、一貫性をもたせることの他に「生徒の興味関心」に寄り添う意識があった。それも含め再検討したい。

- ▷ 【Ⅲ 住居と消費】は物件を選ぶ際の条件は「一人暮らし」という条件があるが、【Ⅳ ライフスタイルと消費】は「車を選ぶ」条件は、留意点にある「社会人として」なのか。また、ⅢとⅣの設定はねらいの内容が似ていることから、提案授業はどちらかに絞ってもよいのではないか。（F校）

→「独立した生活を考える」という題材意識があり、社会人として独立した家計を意識させることをねらった。

- ▷ 「車」という設定は高校生が自分のこととしてリアルに考える題材として興味関心に偏りも考えられ難しいのではないか。家族構成などライフスタイルの条件を設定する、必要な保険の条件を設定することなどで考えやすくなると思う。※「E必要な場法を評価する」に入る内容に関連する。（F校）

→題材設定については、各校の生徒によって興味のあるものが違うため、実践例をだすならば高校生が広く興味のもてるテーマを設定する必要があるのだと再確認した。

(6) 改善した授業構想の提示

頂いた貴重なコメントを基に改善した箇所は、次の2点である。

1点目は、「より具体的な実践例を」とのご批判にこたえ、2次構成の指導計画に拡張したことである。1次を導入の役割とし、2次をREASONSモデルを含んだ意思決定のメインとする（下記参照）。

2点目は、理論理解についての意見にこたえ、2次の各段階に問いを明示したことである。特に、本授業の特徴としては、「R問題を理解する」の段階で到達目標を問うことで生徒の問題理解を深めることをねらった。また、実践の経験から、「E情報を評価する」の段階にKJ法を取り入れ、必要な情報をより多くの視点から発見できることや、活発な意見交換の充実を期待したこと。そして、既存モデルから拡張させた「S改善する」の段階では、再度同じ問題を与えられたときの到達目標を定めるという意識をいれ、学習したプロセスが授業内外を問わず還元されることを目指した。

ここに、改善した授業構成全5次を提示する。

表3 改善した授業構想（全体）

① 題材名「独立した生活を考える」

② 題材の目標

近い将来、独立する自分のライフスタイルをイメージし、消費生活に関する意思決定をすることができる。

③ 題材観

本題材は、以下の学習指導要領の内容を受けて設定された。

〔家庭基礎〕

(2)生活の自立及び消費と環境

エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画

カ 生涯の生活設計

生徒は、高校生活を終わると、それぞれ、進学や就職など、別々の進路を歩む。それと共に生活も大きく変わる。生徒の近い将来に、実家を離れ、一人暮らしを経験したり、自分の収入をやりくりしたりする必要がある。しかし、生徒の中に新生活のイメージははっきりと浮かんでおらず、わからない将来への不安を抱えている生徒も多い。

そこで本題材では、近い将来独立したときの生活をイメージし、自分のライフスタイルや家計を模擬的に設計することにより、自立した新生活への意識を高める。

④ 指導計画

次	時	学習内容	REASONS モデルの位置づけ
第1次 独立した家計を考える	1	給与明細を読みとってみよう	(REASONS)
	2	ひと月分の家計を考えよう	(REASONS)
第2次 ライフスタイルから車の購入を考える	3	車の購入をテーマに、必要な情報を集めよう	RE
	4	情報を分析し、意思決定しよう	AS
	5	意思決定をふり返り、以後につなげよう	ONS

REASONSモデルに基づいた意思決定のメインとした。第1次は第2次の導入的な要素を含むが、第1次にも、1時間の中にREASONSモデルを意識した構成を含ませた。これによって生徒にREASONSモデルに基づく意思決定・問題解決を慣れさせることができると考える。

⑤ 授業展開

【第1次 本時1/5時】

1. 本時のねらい

求人情報から得られる情報の意味を知り、自分の働きたい労働条件の優先順位を決める。

2. 本時の展開

モデル	時	学習内容	・留意点
R	問題を理解する	5 ①本時の課題提示 <div> 将来どんな企業で働けたら自分の納得のいく生活が送れるだろうか？ 勤めたい企業の労働条件について考えよう！ </div> ・この課題に取り組むことの意義・到達目標は？	
E	問題を解決するために必要な情報を評価する	15 ②課題を考えるのに必要な情報は何か、また、それぞれの意味を知る。 <div> 求人票をもとに情報を読みとる。 </div> ・労働条件にはどんなものがあるか。 ・求人票から、それぞれの情報が示す意味の説明 ・複数の求人票をみて、比較する。 ・情報から、労働環境を想像し、自分が働くならどんな所が良いか考える。	・数種類の求人票を用意。 ・民間企業の求人票を資料とするが、民間雇用だけでなく、様々な選択肢が広がっていることを伝える。
A	選択と影響を分析する	10 ③情報をもとに自分にとっての影響を考える。 <div> 情報を考慮して、自分にとってのメリット・デメリットを考える。 </div>	・ワークシートに記入。
S	ベストな選択を選ぶ	15 ④比較検討する。 <div> 自分ならどの企業で働きたいか決める。 </div>	・資料の中から選択。
O	アウトラインを活動計画の実行	8 ⑤実行するときのイメージをもつ。 <div> 実際に選択してみて、自分が何を重視したかグラフに表す。 </div> ・円グラフにそれぞれのウェイトを表す。	・ワークシートに記入。
N	活動結果を記録する	5 ⑥考えたことや感想を記録する。 <div> 一連の学習を通して学んだことを自覚する。 </div>	・ふり返しシートを配布。
S	記録をもとに改善する	2 ⑦今後改善できる点はなにか考える。 <div> 再度同じ問題が与えられたときの到達目標を設定する。 </div>	

3. 評価

- ・はじめとおわりに、到達目標が設定できているか。
- ・労働条件の優先順位を決める一連の活動に参加し、ワークシートに記入できているか。
- ・授業後ふり返しシートに自己評価が記入できているか。

【第1次 本時2/5時】

1. 本時のねらい

求人票を読みとり、ひと月分の家計を考えよう。

2. 本時の展開

モデル	時	学習内容	留意点
R	問題を理解する	5 <ul style="list-style-type: none"> 本時の課題提示 <div>将来どんな企業で働けたら自分の納得のいく生活が送れるだろうか？ 勤めたい企業の労働条件について考えよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> 到達目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間企業に雇用されるだけでなく、将来、様々な選択肢が広がっていることをはっきりと伝える。
E	問題を解決するために必要な情報を評価する	7 <ul style="list-style-type: none"> ②課題を考えるのに必要な情報は何か、また、それぞれの意味を知る。 <div>求人票をもとに情報を読みとる。</div> <ul style="list-style-type: none"> 求人票の情報が示す意味の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 数種類の求人票を用意。 ワークシートを配布。
A	選択と影響を分析する	8 <ul style="list-style-type: none"> ③情報をもとに自分にとっての影響を考える。 <div>情報を考慮して、自分にとってのメリット・デメリットを考える。</div> <ul style="list-style-type: none"> 情報から労働環境を想像し、自分が働くならどんなところがいいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入。
S	ベストな選択を選ぶ	13 <ul style="list-style-type: none"> ④比較検討する。 <div>自分ならどの企業で働きたいか決める。</div> <ul style="list-style-type: none"> 優先順位を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の中から選択。
O	アウトラインと活動計画の実行	5 <ul style="list-style-type: none"> ⑤実行するときのイメージをもつ。 <div>実際に選択してみて、自分が何を重視したかグラフに表す。</div> <ul style="list-style-type: none"> 円グラフにそれぞれのウェイトを表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入。
N	活動結果を記録する	5 <ul style="list-style-type: none"> ⑥考えたことや感想を記録する。 <div>一連の学習を通して学んだことを自覚する。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ふり返しシートを配布。
S	記録をもとに改善する	2 <ul style="list-style-type: none"> ⑦今後改善できる点はなにか考える。 <div>再度同じ問題が与えられたときの到達目標を設定する。</div>	

3. 評価

- ・はじめとおわりに到達目標が設定できているか。
- ・労働条件の優先順位を決める一連の活動に参加し、ワークシートに記入できているか。
- ・授業後ふり返しシートに自己評価が記入できているか。

【第2次】

1. 本次のねらい ライフスタイルや家計管理を意識して自分の購入したい車を選ぶ
2. 全体像とREASONSモデルに基づく主な問い

モデル	学習内容	○主な問い
R	もしも自動車を買うなら・・・？ 自分に適した車を選ぼう！	○到達目標は？
E	自動車の広告から必要な情報を読みとる(税金・燃費・馬力・駆動etc.)	○必要な情報は何か？
A	選択肢を比較し、それぞれの影響とメリット・デメリットを考える	○自他への影響は？ ○長期的・短期的な結果は？
S	総合的に自分に適した車を選択する	○どの選択肢最も適するか？
O	選んだ車の契約必要経費を計上し、納車までの流れを確認する	○解決までのプロセスを体系化できるか？
N	一連の学習を通して自分の意思決定プロセスを記録する	○何を学んだか？
S	再度同じ問題を与えられたときの到達目標を決める	○改善のポイントは何か？

- ・第2次を3時構成とし、REASONSモデルに基づき丁寧に意思決定プロセスを行う。
- ・各段階のメインとなる問いを重視する。

【第2次 本時3/5】

1. 本時のねらい

自分に適した自動車の購入を考えるにあたって到達目標を設定し、情報収集する。

2. 本時の展開

モデル	時	学習内容 ◎問いに基づく内容	・留意点
R	問題を理解する	15 ①本時の課題提示 もしも車を買ったら、どんな車を買いたい？ 自分に合った車を選ぼう！ ◎課題を理解し、自分の到達目標を設定する。	・本時の目標を明示し、その解決までのプロセス(REASON)を示す。
E	問題を解決するために必要な情報を評価する	40 ②課題を考えるのに必要な情報は何か、また、それぞれの意味を知る。 車の広告をもとに詳細を読みとる。 ◎車選びで考えるべき事はなにか。(KJ法) →ライフスタイル、デザイン、予算、住む環境、維持費、etc... ・各班のKJ法で得た情報を共有し合う。	・ポストイット(大判)、ペン、太洋紙(1/2)を班ごとに配布

3. 評価

- ・到達目標を設定できたか。
- ・KJ法でアイデアを出したか。また、班活動に参加しているか。

【第2次 本時4/5】

1. 本時のねらい

選択肢をしぼり、多方面から分析し、自分に適した選択をする。

2. 本時の展開

モデル	時	学習内容 ◎問いに基づく内容	・留意点
A 選 択 と 影 響 を 分 析 す る	35	<p>③情報をもとに自分にとっての影響を考える。</p> <p>情報を考慮して、自分にとってのメリット・デメリットを考える。</p> <p>◎自他への影響、長期的・短期的な影響を考える。</p> <p>・自分のライフスタイルを考慮し、車に求めるものはどんなことか考える。</p>	<p>・数種類の車種の載った広告資料を配布。</p> <p>・ワークシートに記入。</p>
S ベストな 選 択 肢 を選 ぶ	20	<p>③ 比較検討する。</p> <p>自分が考える自分に合う車はどれか決める。</p> <p>◎どの選択肢が最も適するか決める。</p> <p>・なぜその選択にしたのか、理由を記入する。</p> <p>・班内やクラス内で自分の選択を紹介し合う。</p>	<p>・資料の中から選ばせる。</p>

3. 評 価

- ・自分だけでなく他者への影響も考えることができたか。
- ・自分なりに理由をもって選択できたか。

【第2次 本時5/5時】

1. 本時のねらい

一連の自動車の選択の意思決定をふり返り、記録しまとめる。

2. 本時の展開

モデル	時	学習内容 ◎問いに基づく内容	・留意点
O アウトラ インを活 動 計 画 の 実 行	35	<p>⑤実行するときのイメージをもつ。</p> <p>契約から車が手元に届くまでの流れを知る。</p> <p>・選択した自動車の購入にあたって一連の契約金を計上し、自分の将来の家計と照らし合わせてみる。</p> <p>◎契約したらすぐに手元に車が来るわけではなく、諸手続きがあることを知り、一連の過程を知る。</p>	
N 活 動 結 果 を 記 録 する	10	<p>⑥考えたことや感想を記録する。</p> <p>◎一連の学習を通して学んだことを自覚する。</p> <p>・車選びにおける自分の優先順位を円グラフに示す。</p>	<p>・ふり返りシートを配布する。</p>
S 記 録 を もとに改 善 する	10	<p>⑦今後改善できる点はなにか考える。</p> <p>◎再度同じ問題が与えられたときの到達目標を設定する。</p>	

3. 評 価

- ・自分の意思決定のプロセスをふり返って、自己評価できたか。

4. まとめと今後の課題

現職の高校教諭の先生方からいただいたフィードバックから、多くの先生たちがREASONモデルに興味を抱き、授業に取り入れたいと考えていること、しかしながら働きながらでは新しいREASONSモデルについて理解するには時間が不足している、という印象を受けた（B、C校）。ここでは、先生たちがすぐにでも実践にうつせるような、簡潔でわかりやすい理論の説明と具体化された授業構成案の提示が求められている。

先生方は、生活実践への還元が期待されるREASONSモデルを授業展開することに対して、「無限の可能性（A校）」や「科学的な思考（C校）」への期待を感じてくださっている。ここから、実践的推論アプローチによる問題解決は、現代の教育事情にマッチし、家庭科教育に限らず、今後の教育に有効な手段となることが確認できた。

さらに理論の解釈を深め、モデルを活用した授業を検討していく必要がある。これは今後の課題である。

謝辞

本研究にあたり、授業実践に多大なるご協力・ご尽力を頂きました、新潟市立上山中学校今範男校長先生・笠原純子先生、新潟県立長岡商業高等学校島峯勉校長先生・櫻井直子先生、ならびに各学校の生徒の皆様にご心より御礼申し上げます。また、ご多忙の中、授業案に対して詳細なコメントをいただきました新潟県内高等学校家庭科教諭の先生たちにも、心より御礼申し上げます。本研究は、本学部フレンドシップ事業の支援をいただきました。感謝申し上げます。

参考文献

- 荒井紀子・鈴木真由子・綿引伴子（2010）『新しい問題解決学習 Plan Do Seeから批判的リテラシーの学びへ』教育図書
- 石川実（2002）『高校家庭科における家族・保育・福祉・経済―「家庭総合」・「家庭基礎」指導の基礎知識―』家政教育社
- 今井光映（1998）『生活・家政系の学原論パラダイム―M.M.ブラウンの思想と方法を中心に―』家政教育社
- 奥谷めぐみ・鈴木真由子（2010）「アメリカ・EU・東アジアの消費者教育と日本の課題」『大阪教育大学紀要 第V部門』59（1）、51-69
- 大阪教育大学家庭科教育研究会『批判的思考力を育てるカリキュラムと授業～アメリカの家庭科教育の事例に学ぶ～』（2008）
- 佐藤文子・川上雅子（2010）『家庭科教育法 改訂版』高陵社
- 高橋桂子・岡崎空・笠原純子（2014）「新潟市立上山中学校における「消費者教育」領域の授業実践：消費者トラブル、契約・クーリングオフなど生徒の苦手領域をiPadを用いて楽しく学習する」『平成25年度新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」実施報告書』52-60
- 高橋桂子・岡崎空・櫻井直子（2014）「新潟県立長岡商業高校におけるREASONモデルに基づく「消費者教育」領域の授業実践」『平成25年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」実施報告書』61-65
- 多々納道子・福田公子（2011）『教育実践力をつける家庭科教育法〔第3版〕』大学教育出版
- 林未和子（1994）「1960年代以降のアメリカにおける家庭科カリキュラム類型」The Japanese Society for Curriculum Studies（67-80）
- 林未和子（1998）「家庭科カリキュラムの構成概念としての実践問題の検討―ブラウンの理論に依拠したミネソタ州の事例を中心として―」『日本教科教育学会誌』21（3）1-9
- 林未和子・福田公子（1998）「ブラウンの理論に基づく米国家庭科カリキュラムの解析―家族に焦点を合わせたウィスコンシン州の事例―」『日本家庭科教育学会誌』41（3）
- 綿引伴子・中田淳平（2012）「家庭科の家族学習における問題解決学習の分析：実践的推論プロセスを手が

かりに」『金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要』4, 57-70

Janet F. Laster ,2008, Nurturing Critical Literacy through Practical Problem Solving, *Journal of the Japan Association of Home Economics Education*, 50 (4)